

今年も暖冬と言われながら寒波が続き、肌寒い日が続いておりますが、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。試験が終わり、研究やサークル、プライベートなど春に向けて様々な計画を立てられている時期でしょうか。今回は神奈川県平塚市に位置する東海大学湘南キャンパスについてご紹介したいと思います。

### 東海大学について

東海大学は通信省（現総務省）の技官として、1本の線で長距離多重通信可能な無装荷ケーブル通信方式を開発した松前重義によって創立されました。この方式はFM多重放送にも応用され、東海大学はFM東海（これは後に日本初の民放FM局TOKYO FMとなります）という放送局を開局していました。最初は航空と電波の専門学校としてスタートしましたが、現在では文理にまたがって7つのキャンパスと20の学部、海洋調査船「望星丸」があります。

望星丸は海洋学部の実習だけでなく、毎年全学の学生を乗せて世界の国々を回る海外研修航海にも使われます。今年は50回目となり、タヒチやイースター島を巡ります。東海大学は2017年に創立75周年を迎え、今では教育研究だけでなく箱根駅伝など様々なフィールドで名前を目にする総合大学となりましたが、創立の際に掲げられた「建学の精神」は現在の東海大学にあっても根幹をなす大切な思想として受け継がれています。



創立者 松前重義



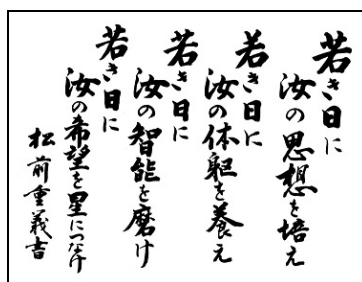
無装荷ケーブル



開学当時の東海大学



箱根駅伝初優勝



建学の精神



海洋調査船 望星丸

### 湘南キャンパスについて

湘南キャンパスは 1963 年に開設され、文学部や体育学部を始め工学部や理学部、情報理工学部など理工系の学部を含めて文理にまたがって 11 の学部があり、2 万人近い学生が通っています。最近ブームの大山ハイキングの起点となる小田急線伊勢原駅から箱根方面の電車に乗ると、小高い丘の上に大きな鉄塔が特徴の 1 号館や扇形の講堂の 2 号館、14 号館などを見ることができます。キャンパス内は東西に走る富士見通りと南北に走る中央通りの 2 つの大通りが T 字状に交差し、この大通りを中心に様々な校舎が立ち並んでいます。キャンパスを設計したのはコンサートで有名な日本武道館などを手がけた建築家である山田守氏で、キャンパス内の多くの校舎を設計しました。曲線を活かした非常に近未来的な校舎群は DOCOMOMO JAPAN より「日本におけるモダン・ムーブメントの建築」に選定され、CM やドラマのロケで使われています。理工系の校舎へは 1 号館と噴水を脇目に見ながら中央通りを南へ歩いていきます。中央通りのケヤキ並木は湘南キャンパスが建てられてすぐに



丘の上に建つ湘南キャンパス



モダン・ムーブメントの校舎群



開設当初の 1963 年



1968 年



様々なロケに使われています

平塚市景観重要樹木に指定された中央通りのケヤキ並木



日本庭園風の噴水と 1 号館



都電の敷石



最新のアクティブラーニング施設が充実したテクノキューブ



ソーラーカーのオーストラリア縦断 学生製作のフォーミュラカーで日本大会へ

植えられたものですが、今では直径 1m 近い大木が立ち並び、歩いていて非常に気持ちいいです。足元に目を移すと中央通りの歩道は敷石となっていますが、この石はかつて都電の敷石だったものが使われています。

### 工学部について

東海大学工学部には機械工学科，精密工学科，動力機械工学科，航空宇宙学科の 4 つの機械系学科があります。工学部はテクノキューブと呼ばれる 2017 年に完成した 19 号館と 12 号館，実験棟に配置されています。テクノキューブには従来の教室だけでなく，自主的な学びをサポートするようなラーニングcommonsやオープンマルチアトリエなどが設置されています。また東海大学には学生が自由な発想で企画立案したプロジェクト活動を支援するチャレンジプロジェクトという制度があり，様々なプロジェクトに全学の学生が参加しています。中でもソーラーカーや人力飛行機を製作するライトパワープロジェクトや，フォーミュラカーを製作する Tokai Formula Club (TFC) には機械系の学生が数多く参加しています。TFC は今年度の日本大会で総合 8 位と大きく躍進しました。それぞれの学生が教室だけでなく実践的な学びを通じて夢を星につなげようと活発に活動しています。

### おわりに

一部ではありますが東海大学湘南キャンパスの紹介をさせていただきました。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄り下さい。記事を執筆するにあたり，東海大学大学広報部企画広報課，東海大学学園史資料センターに多くの貴重な資料を提供いただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。

## 関東学生会活動報告

関東支部学生会担当幹事  
小林健一（明治大学），山本義暢（山梨大学）

## 関東学生会全体交流会 実施報告

新井 健汰（明治大学）

今年度の全体交流会は、10月24日に三菱ふそうトラック・バス(株)川崎工場を訪問し、トラックの組み立てラインや品質管理部門の見学、技術講演会を行いました。学生22名と教員2名の計24名が参加し、技術者が活躍する幅広い分野の現場を見学しました。

組み立てラインではトラックのプラットフォームから完成に至るまでの過程を見学しました。品質管理部門では材料の研究を行う「マテリアルラボ」や運行中のトラックの各種情報を遠隔収集して走行状態を管理する「ビッグデータラボ」、部品の精密計測等を行う「メジャメントラボ」の見学を行い、高品質な自動車ができるようになっていくかを知ることができました。技術講演会では、自動運転と電気トラックに関する技術紹介を頂きました。本講演会では学生から活発な質問もあり、有意義な討論となりました。

最後に、今回の全体交流会の実施にあたり、多大なるご尽力を頂きました三菱ふそうトラック・バス(株)の皆様に感謝申し上げます。



## 第58回学生員卒業研究発表講演会のご案内

3月18日（月）に、千葉工業大学津田沼キャンパスにて第58回学生員卒業研究発表講演会を開催します。田数の皆さんの参加をお待ちしています。

ジェスメディア 第119号（2019年2月号）  
発行：日本機械学会 関東支部 関東学生会  
〒160-0016 東京都新宿区信濃町35番地  
信濃町煉瓦館5階 一般社団法人日本機械学会内  
電話(03)5360-3510 FAX(03)5360-3508  
編集：関東学生会 神奈川ブロック  
東海大学：池田圭吾，小川和輝